

水辺空間活用（舟運）ワーキング 第8回 議事要旨

日時・場所

平成 31 年 3 月 26 日（火） 16:00～17:30

東京都 第二本庁舎 31 階 特別会議室 27

1 委員一覧

別紙 名簿のとおり

2 議題

- (1) 舟運活性化に向けた平成 30 年度の取組について
- (2) 平成 31 年度の取組内容（案）について

3 主な発言要旨

〔清水教授（主査）〕

- ・国、都、区の各レベルを意識しながら、取組内容を考えることが重要である。
- ・これまでの総括や、今後の取組方針の整理が必要な段階に来ている。
これらより、今後に向けて、議論する場を設けることも必要と考える。
- ・2020 大会での様々な交通制約が予定される中、舟運の貢献も期待されるはずである。
- ・現状の取組は観光利用に傾いているように思われるが、今後は日常利用、観光利用のどちらとして捉えていくかの明確化も重要である。
観光利用であれば、デジタルマーケティングに基づいた戦略づくりが重要であり、日常利用を考えれば公共交通としての性質が重要になる。
また、モビリティ領域では今後、モビリティ・アズ・ア・サービス（MaaS）の進展も考慮した戦略が必須と考えなければならない。

〔篠原准教授（アドバイザー）〕

- ・当初は様々な取組に対する案や意見等があったが、運航に関する社会実験の総括が不足しているとも考えている。
関係者で議論し、今後の取組方針等に対する明確化を図る必要がある。
- ・舟運活性化には地域と船が連携していかなければならない。舟運との連携によって、地域の消費活動が促進等、相乗効果が生まれる。

〔建設局河川部〕

- ・浅草や両国の水辺エリアなどでは、オープンカフェや「かわてらす」を設けて魅力ある水辺空間の創出を図っていると同時に、周辺施設とも一体化した地域全体のにぎわいを高める取り組みを実施している。
- ・震災時などの防災機能強化のため、防災船着場の増設やスーパー堤防等の整備を行

うとともに、周辺の複合施設との動線作りを行う。

[港湾局港湾経営部]

- ・「(仮称) 芝浦一丁目計画」の一環として、平成 31 年の夏季に、日の出ふ頭北側に小型船ターミナルやカフェ、芝生広場などがオープン予定である。船着場は小型船クルーズ等の定期・不定期航路に開放する計画としている。
- ・「運河エリアライトアップマスタープラン (平成 30 年度策定)」に基づき、日の出・竹芝、芝浦港南、天王洲の 3 地区にライトアップ促進協議会を設置。平成 31 年度末までに日の出ふ頭の上屋や天王洲水門のライトアップを実施する予定である。

[品川区]

- ・五反田地区を舟運拠点として五反田リバーステーションと周辺の公園を一体的につなぎ、水辺のにぎわい創出を計画している。

平成 31 年度大崎広場、周辺道路、五反田ふれあい水辺広場等の整備工事を実施し、12 月には五反田リバーステーションの運用開始を予定している。

- ・橋梁や護岸等の施設を常設でライトアップする「ヒカリの水辺プロジェクト」を実施している。

平成 31 年度からは、目黒川エリア五反田地区、大崎地区、京浜運河エリア、天王洲エリアと順次着手していく。

- ・来年度の都の実施する臨時便について、広範囲の周遊型もしくは、2 拠点間を結ぶ交通手段を想定した移動型のどちらの観点で考えているのか確認したい。
- ・舟運の情報の一元化において、今後は区の情報も加えてほしい。

[大田区]

- ・平成 30 年度は観光周遊や交通手段として、民間事業者による自走化ビジネスモデルを視野にいたした実証運航を、大森ふるさとの浜辺公園船着場～しながわ水族館棧橋間で行った。

今後は地域特性を活かした国際都市にふさわしい舟運の定期航路化を目指していきたい。

[墨田区]

- ・新たな船着場が 2 つ整備される。定期航路も含む舟運活性化のために、今後も、都の社会実験の運航があれば相談させてほしい。

[東京都 政策企画局]

- ・今後の取組方針の、整理が必要な時期に来ていると考える。
- ・ライトアップなど水辺のにぎわいと運航との連携や、2020 大会と舟運事業のかかわりについて、どのように考えるか知りたい。

〔事務局〕

- ・今年度は船の魅力を紹介する動画「東京舟旅」を作成し、渋谷のスクランブル交差点や西新宿の大型デジタルサイネージでの放映、インターネットでの配信や、るるぶ特別編集「東京舟旅」を作成、配布し、舟運全体の認知度向上に努めた。

船着場周辺のにぎわい創出に関しては、地域のイベントと連携した「サンセットクルーズ」「トイソールレース・クルーズ」「ハシダンシ・クルーズ」の3つの臨時便の運航により、乗船需要の喚起を図った。

また、船着場に係る案内サインを6箇所の船着場での試験設置をはじめ、運航ダイヤや運賃、船着場の位置、船を利用した移動経路など、東京の舟運情報がスマートフォン等で気軽に入手できるよう、舟運情報の一元化的な発信を開始した。

これらの認知度、利便性等の向上のほか、新規航路の開拓の一環として、築地や選手村跡地等の利用など、将来の臨海部の開発を踏まえて、舟運の交通利用に関する可能性について、基礎調査を実施している。

- ・平成31年度も、認知度、魅力、利便性の向上のほか、新規航路の開拓に向けた検討など、舟運活性化に向けた取組を、引き続き継続していく予定である。

なお、臨時便については、橋のライトアップや「ハシダンシ」等と連携した運航や交通手段としての可能性調査も実施する予定である。

- ・2020大会期間中の船着場、水域の制約等、運航への影響を把握し、大会期間中での航路の可能性の模索も図っていきたいと考えている。
- ・意見として寄せられた、取組方針の整理等については、都でも継続的に検討を進めていきたいと考えている。

また、舟運と地域をどのように連携、繋げていくかとの観点は、大きなテーマのひとつと認識している。よって、各区の観光部署との連携を強化し、舟運全般の認知等を一層高めていく必要があると認識している。

以 上

水辺空間活用(舟運)ワーキンググループ(第8回)委員

	委員名
主査	首都大学東京大学院都市環境科学研究科教授 清水 哲夫
専門アドバイザー	跡見学園女子大学観光コミュニティ学部観光デザイン学科准教授 篠原 靖
委員	東京都 政策企画局調整部技術政策担当課長
委員	東京都 都市整備局都市基盤部交通計画調整担当課長
委員	東京都 都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長
委員	東京都 産業労働局観光部観光施策担当課長
委員	東京都 建設局河川部河川管理制度担当課長
委員	東京都 建設局河川部低地対策専門課長
委員	東京都 港湾局港湾経営部監理担当課長
委員	東京都 港湾局港湾整備部環境対策担当課長
委員	千代田区 環境まちづくり部 地域まちづくり課長
委員	中央区 区民部 商工観光課長
委員	中央区 環境土木部 水とみどりの課長
委員	港区 街づくり支援部 地域交通課長
委員	港区 芝浦港南地区総合支所 まちづくり担当課長
委員	港区 産業・地域振興支援部 観光政策担当課長
委員	台東区 都市づくり部 都市計画課長
委員	墨田区 都市整備部 都市整備課長
委員	墨田区 産業観光部 観光課長
委員	江東区 都市整備部 まちづくり推進課長
委員	江東区 一般社団法人 江東区観光協会 事務局長
委員	品川区 防災まちづくり部 河川下水道課長
委員	大田区 まちづくり推進部 空港臨海部調整担当課長
委員	江戸川区 土木部 水とみどりの課長
委員	一般社団法人 日本旅行業協会 関東支部 事務局長
委員	関東旅客船協会 事務局長
委員	屋形船東京都協同組合 理事長
委員	東京湾遊漁船業協同組合 理事長
委員	東京観光遊漁船協議会 会長